



# CHABLIS

L'expression  
cristalline  
d'un terroir

プレスリリース -2022年11月14日

## 2022 ～ 待ち望まれたヴィンテージ

複雑なヴィンテージとなった2021年の後、生産者たちは、霜や熱波、乾燥にもかかわらず、品質と数量がそろそろ2022ヴィンテージに再び笑みを取り戻している。しかしその過程には、少なからぬ困難があった。

2022年は、例年よりも暖かく乾燥した冬の後、2021年同様に春の霜で始まった。

4月3日から11日にかけて北から冷たい寒気が流れ込み、ブルゴーニュ/Bourgogne全体の気温が下がり、生産者は再び霜と相まみえることとなる。最悪の事態が懸念された。

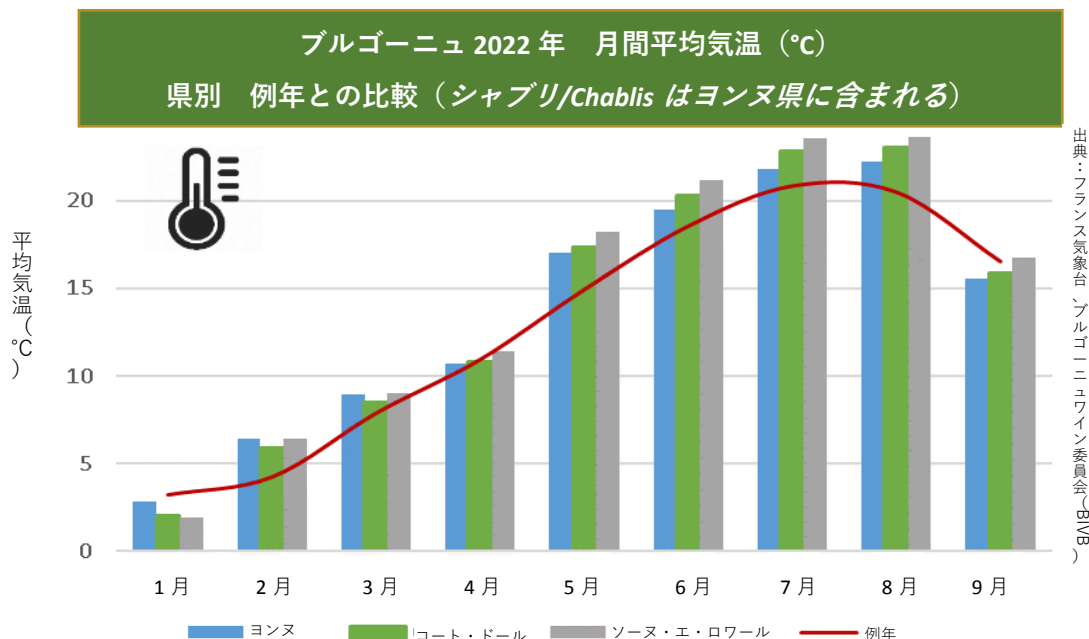
しかし幸いにも、霜の前夜となった3月末の時点で、ぶどうの生育は過去20年平均よりも数日遅れており、芽は膨らんでいる段階にあった。



膨らんでいる段階の芽

CP : BIVB/JL Bernuy

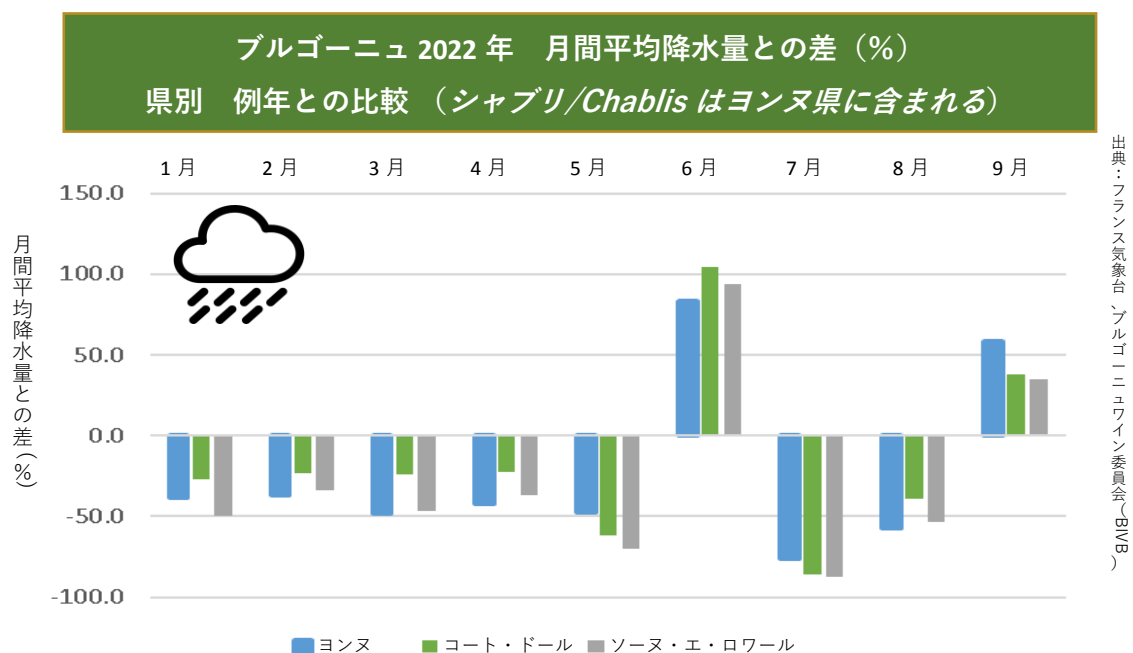
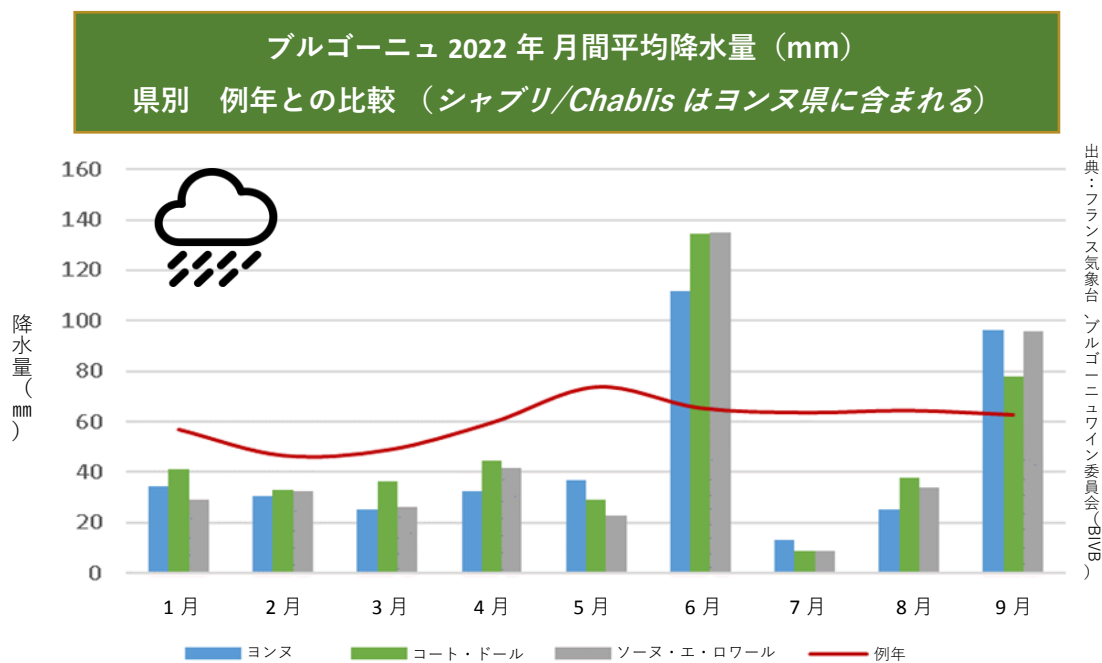
この遅れが決め手となる。2021年よりも生育のスピードが遅く、芽の大半は綿毛の中で守られていたため、被害は2021年に見られたような規模とはならなかった。ただし、一部の早熟の区画には被害が見られた。



凍てつくような寒さが去るや、すぐに穏やかな気温となり、ぶどう樹は生育を再開。実をつける副芽が生長した。この時点で見られた生長段階と状況のばらつきが、ぶどう樹の生育サイクルを通してずっと確認された。

5月8日、雹混じりの雷雨が細い帯状に畑を襲うも、被害は限定的なものにとどまった。

春は異例なほどに暑く、2022年を方向転換させた。5月の高い気温がぶどう樹の生長に刺激を与える。摘心と誘引は非常に速いスピードで行われた。開花の最盛期は5月末。素晴らしい条件の中で開花が進み、花ぶるいも結実不良もほとんどなかった。3月の段階では生長に遅れが見られていたが、開花の最盛期は過去20年平均よりも10日早く訪れ、2022ヴィンテージは早熟と予想された。



5月19日、ヨンヌ県が乾燥警戒下に置かれる。

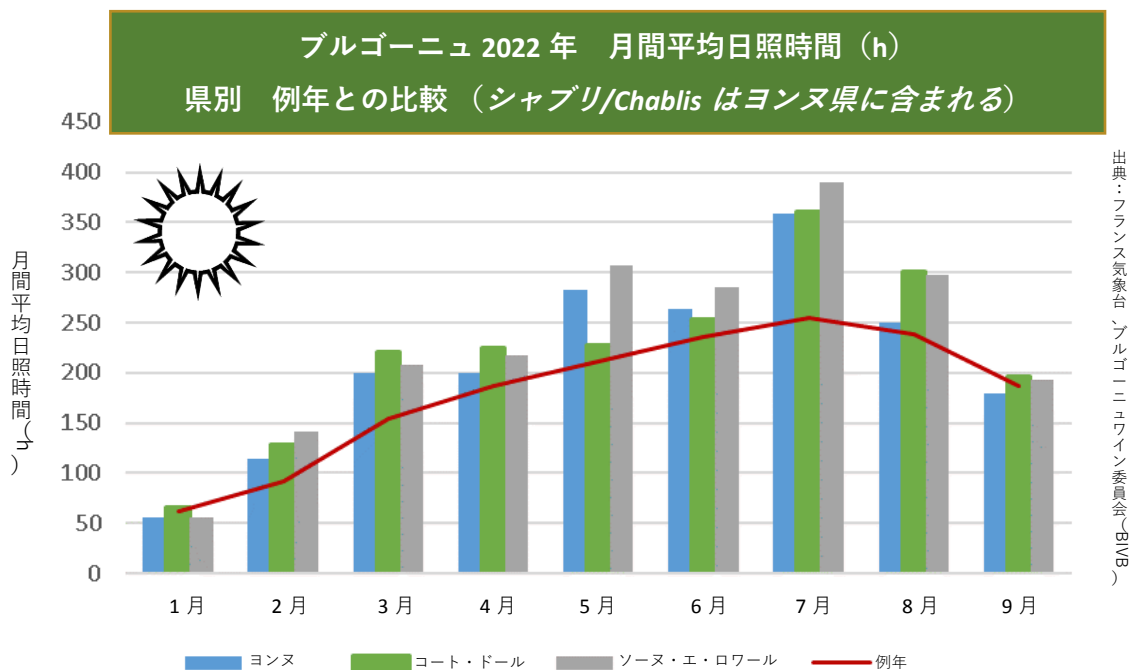
6月19日、雹を伴う雷雨が産地の東部を通過したが、大きな被害はなかった。6月21日から25日にかけて待望の雨が降る。降雨量は区画によりばらつきがあり、シャブリ/Chablisでは42mmから88mmまでを記録した。

7月も乾燥が続く。雨が降らず、病気もなく、畑の衛生状態は申し分ないものだった。

8月10日、スラン渓谷が乾燥の危機にある区画に指定され、給水制限措置が強化された。

熱波による影響は限定的で、ぶどう樹は水分不足によるストレスをよく耐えしのいだ。しかし、浅い土壌や砂質土壌では苦戦する。若いぶどう樹には疲労の兆候が見られた。一部の区画では、水分ストレスによりぶどう樹が黄色くなったり、成熟が遅れたりした。依然として、畑によって様々な状況が観察された。

8月中旬にようやく雨が降る。降水量にもよるが、多かれ少なかれ雨の恩恵を享受できた。



8月が終わると同時に収穫を開始した生産者も一部にはいたが、多くは9月の初旬に収穫を開始した。

雨は午後遅くか夜間に降り、まるで収穫の邪魔をしないように時間を選んでいるかのような感じだった。依然として元気な葉が雨の恩恵を受けた。この恵みの雨が果汁の凝縮を抑え、収穫された果房は、糖分と酸の良いバランスを見せた。

収穫は9月第3週に笑顔で終了した。霜も乾燥も例年並みの生産量を妨げることはなかった。しかし、もちこまれた収穫量はドメーヌによりばらつきがあり、容易に最大限までの収量を得たところもあれば、オペレーションの収量に達しない生産者もいた。

ワインは、熟した果実、洋ナシ、モモのニュアンスを感じさせ、爽やかさを保っている。豊かでコクがあり、良いバランスが見られる。このため、品質は約束されている。

この2022年ヴィンテージは、ワイン不足に悩まされた2021/22年度の後のカンフル剤となり、メゾンもドメーヌも、市場に再びワインを振り分けることができるだろう。



醸造中の澀引き

CP : BIVB/Aurelien Ibanez

[www.chablis.fr](http://www.chablis.fr)

Françoise Roure  
BIVB Chablis-Grand Auxerrois  
Tél. : 03 86 42 42 22  
E: francoise.roure@bivb.com

Twitter & Instagram :  
@VinsdeChablis - #Chablis



VINS DE  
BOURGOGNE